

## 物価高に見合う賃上げを

公共サービス民間労組評議会 議長 橋本 武朋

## すべての単組で要求・交渉しよう

### 公民評の2023春闘方針を決定

2023春闘  
討論集会

公民民間評議会は、1月21日から22日に「2023春闘勝利！ 公共サービス民間労組春闘討論集会」を東京・連合会館で開催し、2023春闘方針を決定した。この集会にはWEBも含めて約190人が参加した。



▲ 全体集会の最後を団結ガンバロウで締め括った。

全体集会では、公民民間

評議会を代表して橋本武朋議長があいさつを行い、続いて、自治労本部の藤森久次副委員長、全国一般評議会の福島憲一議長、岸まきこ参議院議員、鬼木まこと参議院議員があいさつした。比田井修事務局長が「2023春闘の取り組み方針」(案)を提案。春闘方針では、①すべての単組で職場討議を行い要求書を作成・交渉を実施する、②賃上げは、自治体労働者と同じ賃金をめざすことを基本に、賃金カーブ維持分

十賃金改善分として、月額1万6500円以上の賃上げめざす、③単組活動チェックリストを活用し単組活動を強化することなどを提起した。

続いて「職場の安全衛生・労使の役割りについて」と題して、自治労本部の産業医である山名隼人医師が講演した。

取り組み報告は、岐阜県住宅供給公社労組の鷺見顕委員長が「パワハラに対するたたかい」について、日本クリスチャンアカデミー労組(京都)の都木かおり書記長が「解雇撤回の取り組み」を報告した。

最後に橋本議長の団結ガンバローで全体集会を終えた。

コロナ禍で、日々の労働に加えて組合活動に取り組みされていることに敬意を表します。久しぶりに対面で春闘集会を開催することができたことを喜び合いたいと思います。

今春闘の情勢です。物価が数十年ぶりの値上がりをして、生活を圧迫しています。私たちは、少なくとも物価上昇に見合う賃上げを勝ち取る必要があります。

春闘の原点は、企業ごとの労使交渉の弱点を補うことです。それぞれの企業の業績に左右されるといふ弱点を克服し、同じ業種・産業ごとの統一した要求で賃

金相場を形成し、労働者全体に影響を与えることです。

自治労の今年の春闘スローガンは「あなたの声ではじまる春闘」で、一人ひとりが参加し、その声を集めるということ。公民民間評議会には、労働条件が自治体に準拠している単組とそうでない単組がありますが、両方が春闘期に要求書を提出して、春闘期に交渉をスタートさせること、それによって賃金相場を形成し、人事院勧告に波及させることが必要です。

また、今年は統一自治体選挙の年です。普段の労使交渉では対応できない政策・制度課題を実現するためにも、自治体単組や組織内議員との連携を強める機会として重要です。

最後に、私たち民間労働者は労働三権が保障されています。その三権を使いこなすことができるよう組織強化が必要です。



▲ あいさつする橋本議長

## 第1分科会

● 指定管理者制度・委託契約制度の問題と課題

**自治体単組との連携が不可欠**



埼玉県本部の青木アドバイザー（元公共民間評事務局次長）が「委託・指定管理がかかえる不安定化リスクに対処する」と題して講演した。

埼玉県本部では、委託元の自治体に対して毎年秋に委託費用の積算方法や雇用の継続について要請を行っており、自治体への要請には自治体単組との連携が不可欠であることを解説した。

## 第2分科会

● 介護・福祉職場の現状と課題

**人員不足を解消するためには**



自治労本部の門崎社会福祉局長が「介護職員等の処遇改善について」講演。

門崎局長は、処遇改善では、現在でも3つの加算が活用可能。組合は、一時金や手当よりも、基本給のベースアップや非正規職員の処遇改善を求めていく必要がある。人員不足の解消には、職場の人間関係や働きやすいかどうかも重要と参考事例を紹介した。

# 単組活動の活性化にむけて

## 集会2日目は、4分科会で研修・議論を深める

春闘討論集会2日目は、4つの課題別の分科会に分かれて、講演を聞いて研修したり、他の参加者と意見交換した。

## 第3分科会

● 組織活動の活性化

**労働組合をもっと活用しよう**



自治労本部の北川オルグが「労働組合を活用しないのはもったいない！」と題して講演。労働組合に入り、組合費を払っているのだから、①組合員の声を聴こう、②問題解決の手段を考えよう、③解決にむけた行動をしよう、④組合員にフィードバックしようという活性化の方法を提案した。

参加者は、講演を踏まえてグループ討論を行った。

## 第4分科会

● 組織内および協力議員との連携について

**自治体議員と連携しよう**



最初に栃木県本部の澤田副委員長（関東甲地連公共民間評議長）が、公共民間単組出身の自治体議員擁立の経過や連携した取り組みについて講演した。

続いて、栃木県足利市の吉田市議と新潟県五泉市の佐藤市議（写真・2人とも公共民間単組出身）が、立候補に至る経過、議員としての心構えなどについて報告し、参加者と意見交換した。